

建設中のJバイオフードリサイクルのバイオガス化施設

かねて食品リサイクル施設の不足が課題となっていた首都圏で、昨年から新たな大型施設の竣工や建設・着工が相次いでいる。こうした新施設の操業が軌道に乗ることで、施設不足の状況が緩和されることを期待する向きは多い。

小売・外食チェーン

食りの施設では通常、製品となる飼料や肥料の品質を一定に維持するために、処理能力に高められることも可能である。しかし、施設だけでは受け入れの余裕がなくなりつづり、収集運搬業者が顧客から新規に食り理なく運搬できる距離にあり、かつ搬入が可能な施設はほんの限られたもの要望を受けても、無理なく運搬できる距離にあり、かつ搬入が可能な施設はほんの限られたもの要望を受けても、無

い食品残さは、残りの

常、製品となる飼料や肥料の品質を一定に維持するために、処理能

力的に可能でも、能力

にいっぱいに荷を受け入れることではない。と

りわけ、外食などから集めた成分の安定しな

い食品残さは、残りの

キバが少なくなつて

いる施設では敬遠され

る傾向にある。

首都圏では自ずと、

この状況を打破する

かのように、東京・城

南島の東京スパーク

コタウンで飼料化事業

を手掛けるアルフオ

ンター」を竣工したの

は昨年6月だった。

第2飼料化センター

(東京・千代田)が、

「城南島第2飼料化セ

ンター」を竣工したの

は、1日当たり最大1

40tの乾燥・飼料化

設備に、同30tの処理

能力を持つメタン発酵

0%子会社JFE環境

ニアリングとの10

日当たり80tの処理能

力で、内訳は一般廃棄物と産業廃棄物が各40tとなっている。

同社はJFEエンジニアリングの集荷も地元の収集運搬業者と連携して行つ。

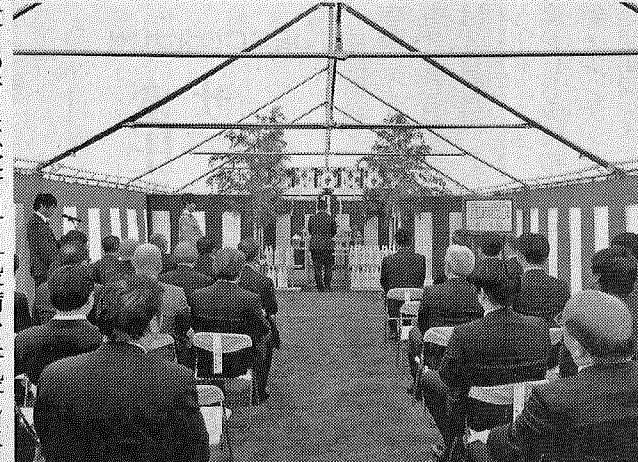
再稼働目指す施設も

この他、臭気問題に

受け皿不足緩和へ

相次ぐ大型施設の建設

首都圏食り事情



来年7月操業を目指す羽村バイオガス発電所の地鎮祭

境、JR東日本と同社100%子会社の東日本環境アクセスが共同で設立。今後、食品廃棄物の集荷に向けてはJFE環境と東日本環境アクセスが営業窓口となる。JR東日本グループが運営する駅ビルやエキナカなどから発生する食品廃棄物のリサイクル率向上にも期待を寄せる。

続いて本紙4月9日号既報の通り、19年7月をめどに、食品廃棄物など1日当たり80t処理、発電量で年間約850万kWh時の規模を持つ「羽村バイオガス発電所」が操業開始を目指す。アーキアーナジー(東京・港)が企画・運営して進めてきたプロジェクトで、3月29日に行なった地鎮祭を経て建設工事に入

れたが、一方で2013年に東京の市部で発生した堆肥化施設の臭氣問題がテレビや一般紙で一斉に報じられたこともあり、食り施設を新規に設置していく状況もあった。

新施設が東京と横浜にこの状況を打破する

かのように、東京・城

南島の東京スパーク

コタウンで飼料化事業

を手掛けるアルフオ

ンター」を竣工したの

は昨年6月だった。

第2飼料化センター

(東京・千代田)が、

「城南島第2飼料化セ

ンター」を竣工したの

は、1日当たり最大1

40tの乾燥・飼料化

設備に、同30tの処理

能力を持つメタン発酵

0%子会社JFE環境

ニアリングとの10

日当たり80tの処理能

力で、内訳は一般廃棄物と産業廃棄物が各40tとなっている。

同社はJFEエンジニアリングの集荷も地元の収集運搬業者と連携して行つ。

再稼働目指す施設も

この他、臭気問題に

境、JR東日本と同社100%子会社の東日本環境アクセスが共同で設立。今後、食品廃棄物の集荷に向けてはJFE環境と東日本環境アクセスが営業窓口となる。JR東日本グループが運営する駅ビルやエキナカなどから発生する食品廃棄物のリサイクル率向上にも期待を寄せる。

続いて本紙4月9日号既報の通り、19年7月をめどに、食品廃棄物など1日当たり80t処理、発電量で年間約850万kWh時の規模を持つ「羽村バイオガス発電所」が操業開始を目指す。アーキアーナジー(東京・港)が企画・運営して進めてきたプロジェクトで、3月29日に行なった地鎮祭を経て建設工事に入れたが、一方で2013年に東京の市部で発生した堆肥化施設の臭氣問題がテレビや一般紙で一斉に報じられたこともあり、食り施設を新規に設置していく状況もあった。

新施設が東京と横浜に

この状況を打破する

かのように、東京・城

南島の東京スパーク

コタウンで飼料化事業

を手掛けるアルフオ

ンター」を竣工したの

は昨年6月だった。

第2飼料化センター

(東京・千代田)が、

「城南島第2飼料化セ

ンター」を竣工したの

は、1日当たり最大1

40tの乾燥・飼料化

設備に、同30tの処理

能力を持つメタン発酵

0%子会社JFE環境

ニアリングとの10

日当たり80tの処理能

力で、内訳は一般廃棄物と産業廃棄物が各40tとなっている。

同社はJFEエンジニアリングの集荷も地元の収集運搬業者と連携して行つ。

再稼働目指す施設も

この他、臭気問題に

食品系・バイオマス

よって13年から「八王子バイオマス・エコセンター」の稼働を停止して、14年から実験室で協議しながら再稼働に踏んでいる。現在は新たな脱臭装置の設置を行いたい意向だ。

昨年には、民事再生手続きを経て、新たに設置後に少量の生ごみを投入しながら試運転を行いたい意向だ。

市と協議しながら再稼働に向けたステップを

設置を目標しており、地道に踏んでいる。現在は新たな脱臭装置の設置を行いたい意向だ。

昨年には、民事再生手続きを経て、新たに設置後に少量の生ごみを投入しながら試運転を行いたい意向だ。

市と協議しながら再稼働に向けたステップを